

大学と近隣施設、学校現場の架け橋 ～移動研究室の展望～

椿 武

本学は、座学での講義や実技・演習科目での学び、いわゆる学内でのオンキャンパス教育と、学内での学びを基にして学外で実践するオフキャンパス教育を軸に学生の学びをサポートしている。ジュニアスポーツ教育学科が開設され12年が経過し、オンキャンパス教育の充実と言うまでもないが、地域や自治体との連携事業やNPO法人親和スポーツネットを活用した学生参加型の講座の実施など、学生が活躍するオフキャンパス教育の場も充実してきた。近年では、神戸市立中央体育館とのコラボ企画である“チャレンジサマースクール”や、神戸市や北区を題材として学生が主体となって一般社団法人世界ゆるスポーツ協会と共同で企画・開発した、本学オリジナルの“ゆるスポーツ体験イベント”の開催など、地域を巻き込んだオフキャンパスイベントを実施してきた。また、学科の学びを通じた公開講座では、大学周辺の子どもの対象とした“体育塾”や、高齢者を対象とした“貯筋運動教室”など、体育・スポーツ・健康に関わる講座を実施し、日々の研究成果を地域住民へ還元してきた。しかしながら、実際の教育現場、健康運動の実践の場への学生達の参加意欲に対して、本学科が主体となって行っている、オフキャンパス教育の場の提供はまだ十分とは言えない。そこで、本コラムでは本学科がこれまで蓄積してきた知見を広く地域や学校現場に還元する方法の提案と、学生のオフキャンパス教育の場の拡充の1つの方策として私見を述べていきたい。

1. 神戸市北区にある施設との教育・研究連携の提案

本学は神戸市北区（以下、北区とする）にある唯一の4年制大学である。北区には公益財団法人こうべ市民福祉振興協会が運営を行っている“しあわせの村”や、公益財団法人神戸市公園緑化協会が運営している“神戸市立森林植物園”、“あいな里山公園”、“ひよどりごえ森林公園”など、地域住民だけでなく遠方からも大勢の人達が利用する大規模公園施設が充実している。

それらの施設の1つであるしあわせの村は、本学から一番近い場所に位置し、広大な施設があるだけでなく障がい者スポーツ施設も充実している。『パラスポーツ王国HYOGO & KOBE夢プロジェクト2020』など、障がい者スポーツイベントにも力を入れており、障害者スポーツ指導員資格の取得を目指す学生が在籍する本学科の学びの場としてはこの上ない環境である。また、神戸市シルバーカレッジも村内で開講され、本学科に親和性の高い「健康福祉」を学ぶコースもある。北区に唯一の4年制大学としては、この充実した近隣施設を精一杯活用した学びの場の創出が、これまで以上のオフキャンパス教育を充実させる方策の1つとして考えられる。

2. 学校現場との教育・研究連携の提案

本学はスポーツ交流・支援事業の1つとして、複数の高等学校とスポーツ協定を結んでいる。しかしながら、部活動を通じた合同練習会の実施などは行っているものの、本学科の学びを通して得られた知見を協定校に還元できていない。学校現場では、日々の学生指導・授業などの業務がある中で、最新の科学的なエビデンスを基にした授業改善、あるいは部活動指導の見直し、選手のパフォーマンスチェックなどを行うことは多くの学校現場では難しいと推察される。他方で、大学・研究者側から見てみると、実践的な介入を受け入れてくれるフィールドの確保に苦労している。学校現場の教員と大学の研究者両者のニーズが一致するのであれば、実際の教育現場が抱えている課題を共有し、協同して改善案を作り上げ継続的にブラッシュアップさせより良い改善案を作り上げていくなど、保健体育科教員・スポーツ指導者養成大学として非常に有益な知見を得られると考えられる。

また、部活動での簡易的なパフォーマンスチェック方法の共同開発を行うことによって、競技ごとに必要な身体的・技術的要素が明らかとなり、競技力の向上に寄与することが期待される。大学としては、各競技種目の選手のデータが得られ、今後の研究テーマの創出やヒントを得られるなど、研究者として非常に貴重な場を得ることができる。その活動の中に、本学科の学生も参画し、学校現場の教員、研究者、学生の3者で課題に取り組むことは、学生のオフキャンパス教育の場として非常に有益で貴重な機会となると思われる。

3. オフキャンパス教育の場としての移動研究室（キャラバン隊）の提案

上記の2つの提案を実現する方法の1つとして筆者が提案するのは、移動研究室の実施である。大学の取り組みに賛同していただける近隣の施設や高等学校に出向き、準備段階から学生を含めたキャラバン隊を組織し、具体的な教育・研究連携について議論を深めていく。学生にとっては、他大学では経験できない貴重な時間となるだろうし、本学・本学科としては地域貢献、大学の社会的意義を広報する最大のチャンスになると思われる。

しかしながら、キャラバン隊を組織し実際に運営していく上では、学科のカリキュラム、時間割の変更などまだまだ整備が必要な事項はたくさんある。具体的には、3・4年生が共同でゼミ活動ができる時間割の確保、外部への移手段・規程の整備などが挙げられる。解決しなければならない課題は山積であるが、保健体育科教員免許取得、スポーツを学べる学科が乱立している中で、他大学との差別化を図り、本学の良さを広く発信していくには、移動研究室の実現は急務である。

参考文献

- ・公益財団法人こうべ市民福祉振興協会HP：<http://www.kobe-wa.or.jp/>（閲覧日：2021/03/05）
- ・公益財団法人神戸市公園緑化協会HP：<https://www.kobe-park.or.jp/>（閲覧日：2021/03/05）
- ・しあわせの村HP：<http://www.shiawasenomura.org/index.html>（閲覧日：2021/03/05）